

## 若手奨励研究 研究成果報告書（概要）

研究課題名：看護における終結の概念分析-精神科看護への活用の検討-

研究者名：葛島慎吾

精神科看護実践における「終結」概念の活用について検討するために、精神科看護実践の「終結」について文献レビューを行なった後、看護における「終結」の概念分析を行なった。

【目的】本研究では精神科看護における精神障害者と看護師との関係性の終わりに関して探求するために「終結」という概念を活用できるかどうか、看護における終結の概念分析を行い検討した。

【方法】Walker & Avantの概念分析の方法を参考に行なった。海外文献は、CINAHL、MEDLINEを用いてキーワード「termination」「nurse or nursing」にて検索した。国内文献は、医学中央雑誌、最新看護索引を用いてキーワード「終結 or 別れ or ターミネーション」「看護」にて検索した。検索された文献を概観し、看護における終結の定義や構成要素に関して記述がある文献を抽出し概念の用法・定義属性・先行要件・帰結を明らかにした。定義属性・先行要件・帰結の検討では、抽出した記述内容をコード化・カテゴリー化していった。

【結果】関連する書籍を加え、最終的に27文献を分析対象とした。看護の分野において終結は患者-看護師関係の局面の一つとして理論化されてきた。しかし、近年の在院日数短縮化に伴い、患者-看護師関係に関して、特に患者との関係性の終結に関する教育に課題があることが指摘されている。分析の結果、終結概念の定義属性としては、「体験を振り返る」「他者とのつながりの中で今後のことを考える」「他者とのつながりの継続を支える」「次なるステップを後押しする」「患者-看護師関係の最終段階」が明らかになった。また、終結には3つの先行要件-「関わる頻度を減らす」「自立度を見定める」「現状の問題の解決」-と4つの帰結-「患者の成長」「看護師の成長」「他者とのつながりの発展」「気分の不安定」-があることが明らかになった。

【考察】看護における終結は、患者がこれまでの体験の振り返りを行い、他者とのつながりの中で次なるステップに進めるように後押しがなされる患者-看護師関係の最終段階であると定義づけられた。患者-看護師関係が終結の局面に達するためには、それ以前の局面で、看護師が患者のニーズを十分に満たすように関わる必要がある。したがって、患者との出会いからすべての関わりが終結につながっているといえる。精神科看護実践の対象である精神障害者は対人関係構築が難しいことが多く、より良い終結を迎えるために患者-看護師関係のプロセス全体を捉える必要があると考える。また、終結によって患者-看護師関係は終わりを迎えるが、患者は新たな対人関係の構築といった他者とのつながりの発展を示していた。ここで看護師は物理的に不在となるわけだが、日々の看護実践の中で、患者にとって安定した信頼できるイメージの存在を患者のこころの中に形成することで、患者は終結後もより安定した気持ちで新たな対人関係や場で力を発揮できると考える。

【Key Words】看護、終結、概念分析

【研究成果の発表など】葛島慎吾(2021)：精神科看護実践における終結に関する文献レビュー，医療法人財団青溪会駒木野病院看護研究集録，4，2-7.